

小学校 第4学年 音楽科 学習指導案

青森県八戸市立江陽小学校
教頭 石井 一二三

題材名 パートの役わりを生かして生き生きとえんそうしよう（3時間）

**題材の
ねらい**

- (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色に気を付け、互いの音を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。
- (2) フレーズや音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲想や声部の役割を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、タンゴの音楽や合奏に親しむ。

**本時の
ねらい**

- 楽曲の感じを捉えて、楽曲の感じに合った歌い方や演奏を工夫する。
- 音楽の特徴やよさを感じ取り、いろいろな表現を楽しむ。（第1時）

指導時期 1月中旬～下旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

器楽の指導は、読譜にくわえ複数の楽器の奏法を理解させるとともに、パートの役割を考えながら演奏させるという点で、非常に多くの内容を指導する必要がある。さらに、音楽の学習を苦手としている児童にとっては、楽器を演奏するまでに理解しなければならないことが多く、活動に対して消極的になってしまうという傾向がみられる。

しかし、このような状況であっても、「指導者用デジタル教材」を活用することで、教師は、演奏に必要な指導内容を明確に説明できるようになり、児童は、視覚と聴覚の両方を使って楽器演奏のための技能を身に付けることができるようになると期待される。まさに、デジタルのよさをいかした学習活動が展開される。

本時(第1時)の展開

| | 活動内容 | デジタル教科書・教材の活用 |
|----|--|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 |  |

| | 活動内容 | デジタル教科書・教材の活用 |
|----|--|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ●「ラ クンパルシータ」 「CD 音源再生」 のページを開く。 ●「全パート」 の演奏を聴き、おおまかに曲想を捉らえる。 ●「パート別再生」 の演奏を聞く。 |  <ul style="list-style-type: none"> ●自分の演奏してみたいパートをイメージしながら聴く。  |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ●パート別の演奏に合わせてながら自分のパートを練習する。 ●他のパートのパート別演奏に合わせてながら自分のパートを練習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●リコーダーについては、「リコーダー運指再生」の動画に合わせて練習する。 ●必要に応じてドレミ表示を使って自分の演奏している音を確かめる。   |

| | 活動内容 | デジタル教科書・教材の活用 |
|-----|--|--|
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ● 全員で一度合わせる。 |  |

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

第2時の展開場面①

ラ クンバルシータ マトス・ロドリゲス 作曲
佐野真 総編曲

♩=120 ぐい はぎれよく



第2時の展開場面②③

ラ クンバルシータ マトス・ロドリゲス 作曲
佐野真 総編曲

♩=120 ぐい はぎれよく



- ① 器楽の学習において、複数の楽器で演奏する際には、楽譜が数段に分かれて表示されるため、言葉だけの説明では伝わらないことが多くなるが、「指導者用デジタル教材」の楽譜を提示することで、説明が簡潔になる。
- ② これまでは、読譜ができないという理由から演奏をあきらめていた児童も、「指導者用デジタル教材」の提示により、現在演奏している箇所がカラオケのようにガイド表示されたり、演奏している場所が明確になったり、運指が表示されたりすることで、活動に前向きに取り組むことができるようになる。
- ③ 音源選択で「けんぱんハーモニカ1」「リコーダー1」等を選択することで、それぞれのパートの練習に適切な楽譜と音源の提示が可能であり、何度も繰り返し練習することができるので、演奏の技能を高めることができる。